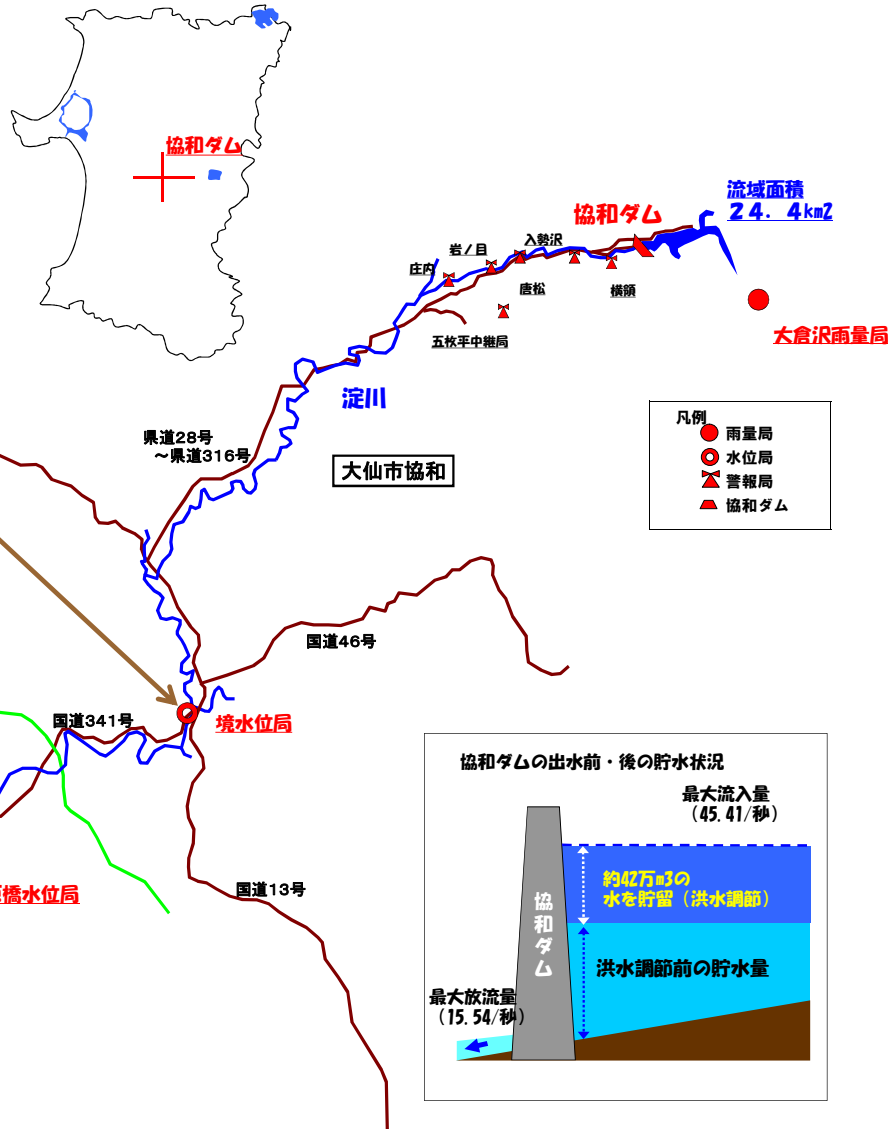
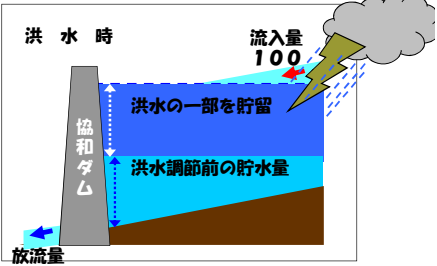


# 協和ダムの洪水調節効果【秋田県】（速報）

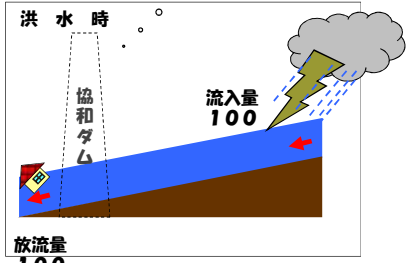


## 協和ダムの洪水調節のしくみ (イメージ)



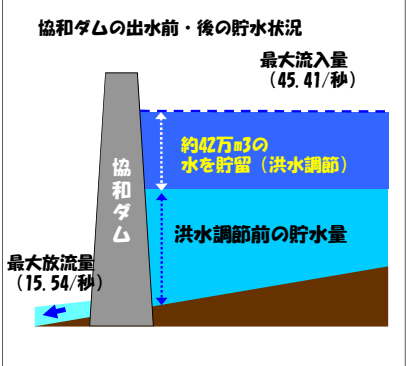
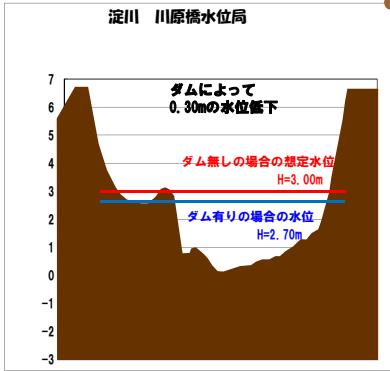
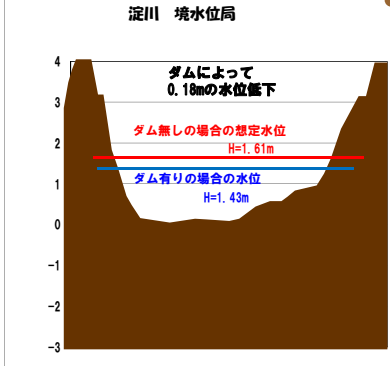
洪水時には、空容量を使って100流れてくる水をダムで90を貯めて、下流に10だけ流します。

## でも・・・ダムがないと



流れてくる100の水はそのまま下流に流れていきます。

協和ダムでは、390m<sup>3</sup>/秒の流入量に対して39m<sup>3</sup>/秒の放流を実施し、下流に流す水量は1/10になるため、下流域の洪水被害の軽減に努めています。



協和ダムでは、8月8日～9日の前線（低気圧）のため洪水調節を行いました。約42万m<sup>3</sup>の水をダムへ貯留し、ダム下流の淀川に流れる水量を少なくして、洪水被害の軽減に努めました。

